

【三木市】

三木市は、兵庫県中南部に位置し、まちの中央部を加古川の支流と美^{みの}囊^う川が流れ、沖積平野と台地や丘陵から成る自然環境に恵まれた地域です。

主要産業である金物産業は、伝統に培われた優れた技術を有し、品質と性能の高さが全国的に高く評価されています。また、肥沃な土地は、酒造好適米として最高級品「山田錦」の産地としても知られる米どころです。

昭和29年6月1日に市制を施行し、人口約8万600人を有します。

【調査概要】

三木市消防本部消防庁舎は、阪神淡路大震災のような大規模地震にも耐え得る構造で、あらゆる災害に対する活動の拠点として整備されています。平成10年の用地決定から20年4月の運用開始まで慎重に時間をかけて検討がなされ、建設に約15億500万円の事業費が投じられています。現在は消防救急無線のデジタル化対応のため、平成28年4月運用開始に向けて計画が進められていました。

この庁舎内には、防災クイズコーナーや119番通報体験コーナーなど市民に親しまれる施設も設置され、防災に対する教育・訓練や災害時の飲料水、非常食、医薬品などの防災備蓄品も備えてありました。また、緊

急車両出動の際は、一般車両への注意を喚起するための緊急車両出動表示灯も設置されており、安全対策にも考慮されていました。

また、職員の動線を考えた部屋の配置や訓練時における屋外トイレの必要性、女性職員の採用を視野に入れた設計など様々な問題点を把握することができ、庁舎建設の際には実用性を考慮した設計が重要であると思いました。

本市においても、消防庁舎の建設が予定されています。先進地の事例を大いに参考にして、市民に親しまれる消防庁舎となるよう、市議会としても議論していくべきだと思います。



三木市消防庁舎

産業経済委員会

平成24年10月9日から10月11日までの3日間、北海道北見市の「地場産品の高付加価値化・販路開拓事業及び中小企業等振興条例」についてと網走市の「あばしり旅プランコンペ事業等観光振興事業」について行政調査を行いました。

【北見市】

北見市は、北海道東部の網走支庁管内のほぼ中央に位置し、面積は1千427平方キロメートルと北海道でも最大（全国4位、松浦市の約10・9倍）を誇り、東西の距離は石北峠からオホーツク海まで約110キロメートルにも及びます。

日照率は全国屈指の高さで、降水量も少なく、その気候を生かしてタマネギなどの農産物が生産されています。

市庁舎は、合併の時期に撤退した東急デパートを市が譲り受け、ここに市役所の機能を移しています。4階と5階を市役所に、1階から3階までをテナントとして利用しています。

平成18年3月5日に北見市と端野町、常呂町、留辺蘂町の1市3町が合併し、人口約12万4千300人を有し

ます。

【調査概要】

北見市では、地場産品高付加価値化推進委員会を設置し、地場産品を使った商品開発や販路開拓の取り組みを行っています。販売ターゲットをどこにするかでやり方が変わっています。首都圏向けの場合、北見産として販売しても認知度が低く、北海道産としたほうが消費者にはわかりやすいとのことでした。

松浦市に置き換えれば、関西や東京等の都市圏に対して行う場合、松浦産というよりも長崎産、九州産とした方が消費者ニーズに合った販売促進ができるのではないかと感じました。松浦のアンテナショップは福岡に設置しており、「松浦」をアピールするというのが目的はマッチしていると思われる。

また、北見市ではアジアへの販路開拓を検討していますが、流通経路や輸送時間に問題があるとのことでした。一方、松浦市は日本の西の端に位置し、アジア大陸には一番近いところがありアジア諸国との流通については利があると考えられます。

輸送経路の確立を図り販路開拓に力を入れるべきだと思います。

中小企業等振興条例については、中小企業基本法に基づき制定され、新規進出企業への支援制度や地場企